

~~~~~ 編集後記 ~~~~~

『京浜歴科研年報』一九号をお届けいたします。

お忙しい中でご執筆くださいました諸氏には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

内田修道氏の論文は『下野新聞』の関東大震災報道を題材として、報道によって「物語」がどのように作り出されていくのか、その過程を詳細に分析したものです。現代社会の動向に目を向けますと、盗作、ねつ造といった問題が連日のように報道されています。九〇年代半ば以降、IT技術は急速な進歩を遂げ、私たちは世界中で起こっている出来事をリアルタイムで、しかも手軽に知ることができるようになりました。その一方で、情報の作り出される背景を精査する能力が個々人に求められています。こうした流れの中にあつて私たちはいかに情報と向き合って行けばよいのか、内田論文はその指針を示しているように思えます。

また野村靖の修身教科書批判を取り上げた大湖賢一氏の研究ノートも、現在の教育問題へと繋がる論点を孕んでいるように思えてなりません。これは私だけの感想でしょうか。

青山文久氏・伊東富昭氏にも書評をご寄稿いただき、幅広い内容になりました。

次号はいよいよ二〇号目となります。論文に加えて新たな企画も予定しておりますので、どうぞご期待ください。

末筆ながら、読者諸氏には、今後ともご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

(神谷大介)

京 浜 歴 科 研 年 報 第 一 九 号

発行日 二〇〇七年二月一日

編集・発行

京浜歴史科学研究会

〒二三三―〇〇〇六

横浜市港南区芹が谷五―五九―一二 大湖賢一方

電話 〇四五―八二五―三七三六

郵便振替口座 〇〇二七〇―八一―一五五三五

印刷

合資会社 横 浜 大 気 堂

横浜市中区真砂町四―四〇